# 第2章 スポーツを取り巻く状況

## 1 本市の公共スポーツ施設

市内には、約 30 ヶ所の公共スポーツ施設があり、その多くは整備から 30 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。

なお、令和２年４月には新たなスポーツの拠点となる総合体育館「さわやかアリーナ」の供用を開始し、市民のスポーツ活動の幅がさらに広がっています。

市内の公共スポーツ施設一覧

| 区分 | 番号 | 施設名 | 施設機能 |
|---|---|---|---|
| 複合施設 | 1 | 総合体育館「さわやかアリーナ」 | 競技場、トレーニング室、武道場、多目的室（フィットネス）等 |
| | 2 | 【県施設】<br>小笠山総合運動公園エコパ | 陸上トラック、サッカー場、競技場、トレーニング室、研修室（フィットネス）、多目的運動広場等 |
| | 3 | 愛野公園 | 野球場、テニスコート、弓道場、相撲場 |
| | 4 | 風見の丘 | プール、トレーニング室、フィットネス室 |
| | 5 | 月見の里学遊館 | プール、トレーニング室、フィットネス室 |
| | 6 | 山名コミュニティセンター | テニスコート、トレーニング室 |
| | 7 | 三川地区コミュニティ広場 | テニスコート、多目的運動広場 |

| 区分 | 番号 | 施設名 |
|---|---|---|
| 体育館 | 8 | 浅羽体育センター |
| | 9 | 袋井体育センター |
| 野球場 | 10 | 浅羽球技場 |
| テニスコート | 11 | 浅羽テニスコート |
| | 12 | 長溝テニスコート |
| プール | 13 | 袋井 B&G 海洋センター |
| 多目的運動広場等 | 14 | 袋井北地区コミュニティ広場 |
| | 15 | 国道 1 号バイパス高架下多目的広場 |
| | 16 | 堀越公園多目的広場 |
| | 17 | 虹のささやき公園グラウンド |
| | 18 | 袋井東地区コミュニティ広場 |
| | 19 | 広岡河川公園グラウンド |

| 区分 | 番号 | 施設名 |
|---|---|---|
| 多目的運動広場等 | 20 | 原野谷川親水公園東側広場 |
| | 21 | 田原緑地グラウンド |
| | 22 | 原野谷川スポーツ公園グラウンド |
| | 23 | 中遠クリーンセンター多目的広場 |
| | 24 | 浅羽北多目的運動広場 |
| | 25 | 笠原地区コミュニティ広場 |
| | 26 | 浅羽東多目的運動広場 |
| | 27 | 浅羽西多目的運動広場 |
| | 28 | 二瀬多目的運動広場 |
| | 29 | （仮称）春岡多目的広場 |
| | 30 | 宇刈里山公園多目的広場 |

市内の公共スポーツ施設の位置

総合体育館「さわやかアリーナ」

小笠山総合運動公園エコパスタジアム

## 2 市民のスポーツに関する意識調査の結果について

本市のスポーツの現状を「第３次袋井市スポーツ推進計画」の基本目標の５つの視点から、市民のスポーツに関する意識について分析しました。

【調査概要】

調 査 名：第４次袋井市スポーツ推進計画策定等に係る市民意識調査
調査対象：袋井市在住の 18 歳以上を無作為抽出
調査期間：令和２年６月１日から令和２年６月 15 日
調査数等：配布 3,000 件　回数 1,253 件　有効回答率 41.8%

※調査結果の割合については、小数第二位を四捨五入しているため、合計 100%とならない場合があります。

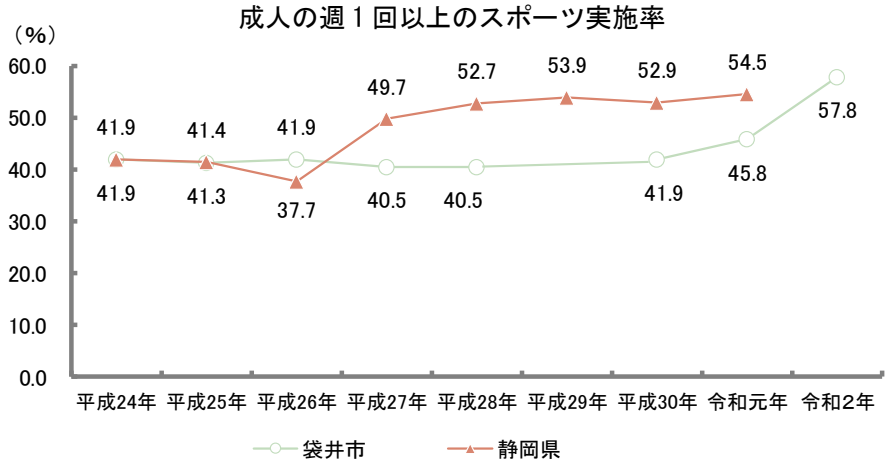
### （１）生涯スポーツの推進

〈特徴〉

- 成人の週１回以上のスポーツ実施率は、増加している。
- スポーツ実施率はシニア世代で高く、30～40 歳代では低い。また、行わない理由は、「仕事、家事、育児などで忙しく時間がない」が高い。
- 障がい者スポーツについて、「関心がある」「やや関心がある」がおよそ４割となっている。
- 障がい者スポーツやパラリンピック競技種目を観戦または見たことがあるかについて、テレビ、ラジオ、インターネット配信等も含めた「見た」が高く、「実際に見た」は 1.8%とわずかである。また、障がい者スポーツを体験・経験したことがあるかについてはおよそ６%と少ない。

#### ① 成人の週１回以上のスポーツ実施率

成人の週 １ 回以上のスポーツ実施率は、「令和元年度　袋井市総合計画推進に係る市民意識調査」によると 45.8%となっており、近年はほぼ横ばいで推移してきましたが、本調査では 57.8%と近年の数値を大きく上回りました。ウオーキングやランニングなど、いつでも手軽にできる個人スポーツが好まれる傾向にあることが考えられます。



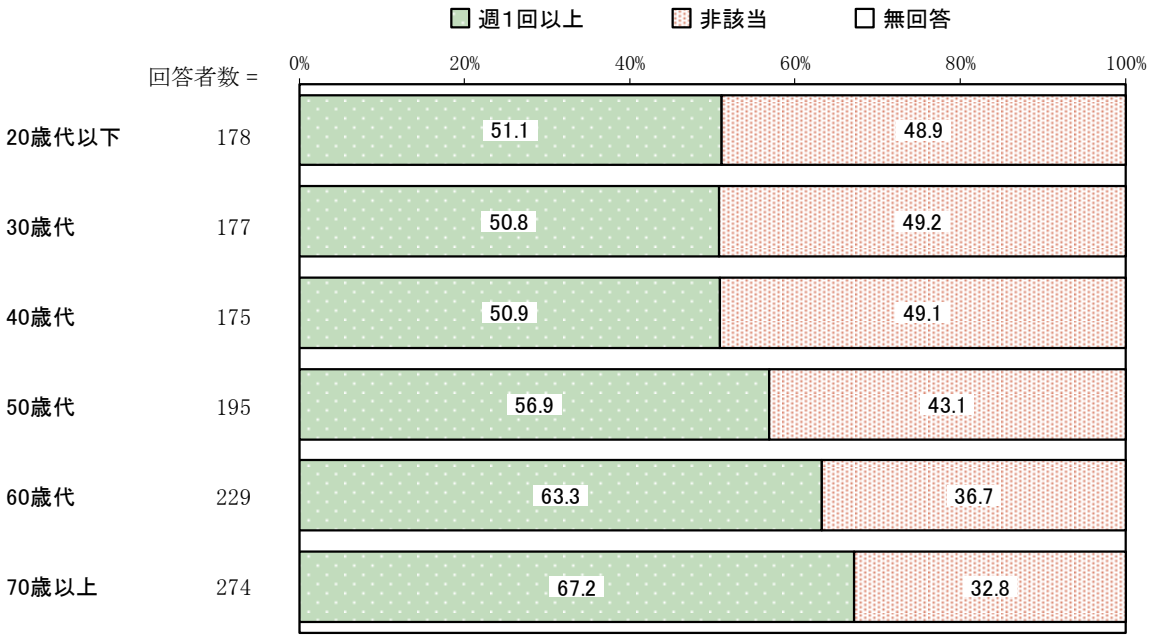

※平成 30 年までは 20 歳以上、令和元年からは 18 歳以上を成人としています。

### ② 年齢別のスポーツ実施率

ウオーキングや体操など気軽にできる生涯スポーツの啓発により、シニア世代でのスポーツ実施率は高くなっていますが、子育てや仕事などで忙しい 30～40 歳代のスポーツ実施率は低くなっています。

性・年齢別でみると、男性では、年齢が高くなるにつれスポーツ実施率が高くなっています。女性では、50 歳以上でスポーツ実施率が高くなっています。

年齢別のスポーツ実施率




性・年齢別のスポーツ実施率

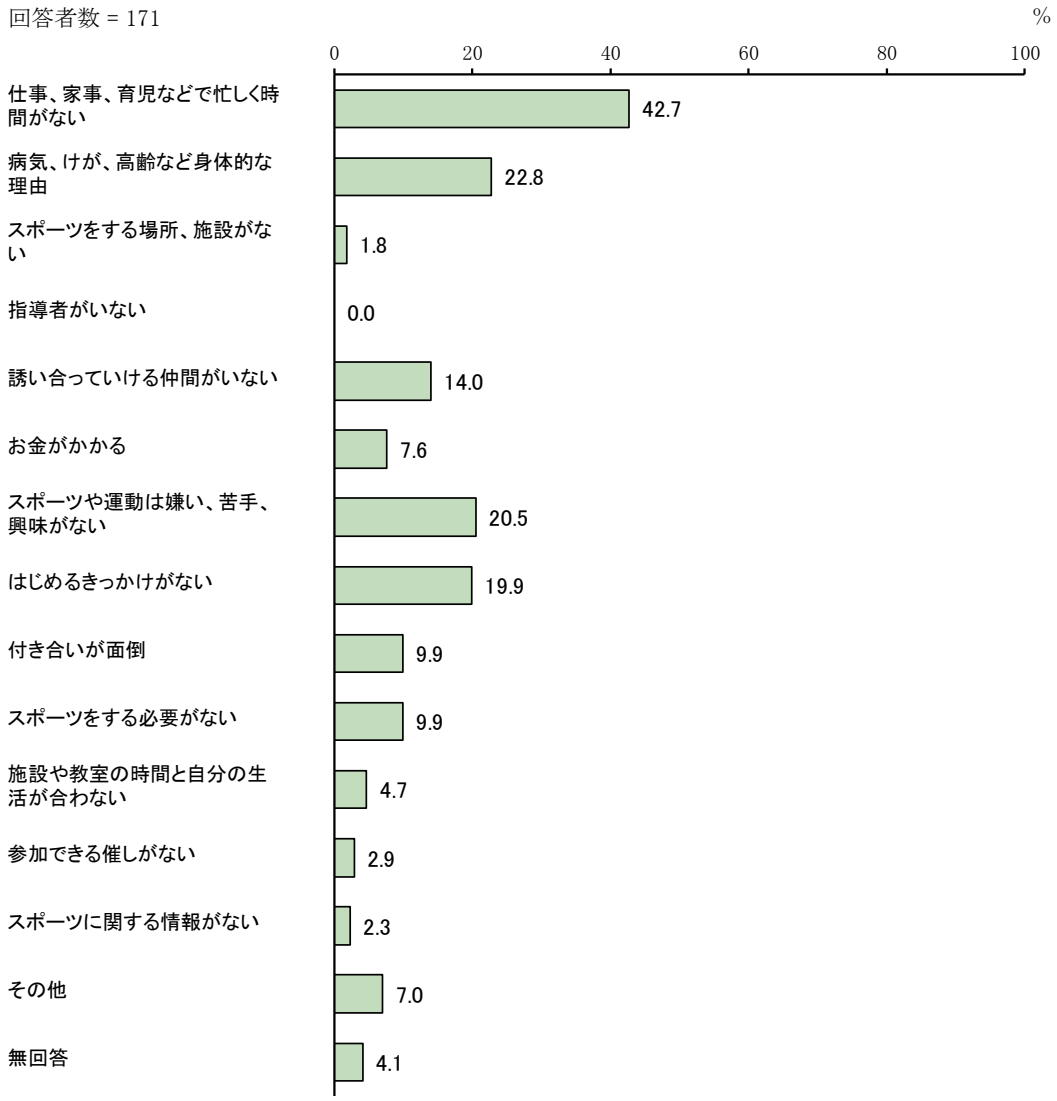
単位：％

| 区分 | 有効回答数（件） | 週1回以上 | 非該当 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 60 | 48.3 | 51.7 | － |
| 30 歳代 | 76 | 48.7 | 51.3 | － |
| 40 歳代 | 83 | 50.6 | 49.4 | － |
| 50 歳代 | 102 | 55.9 | 44.1 | － |
| 60 歳代 | 124 | 66.9 | 33.1 | － |
| 70 歳以上 | 147 | 74.8 | 25.2 | － |
| 女性　20 歳代以下 | 117 | 53.0 | 47.0 | － |
| 30 歳代 | 100 | 53.0 | 47.0 | － |
| 40 歳代 | 92 | 51.1 | 48.9 | － |
| 50 歳代 | 92 | 57.6 | 42.4 | － |
| 60 歳代 | 104 | 58.7 | 41.3 | － |
| 70 歳以上 | 124 | 57.3 | 42.7 | － |

### ③ スポーツや運動をしなかった主な理由

「仕事、家事、育児などで忙しく時間がない」が 42.7%と最も高くなっています。

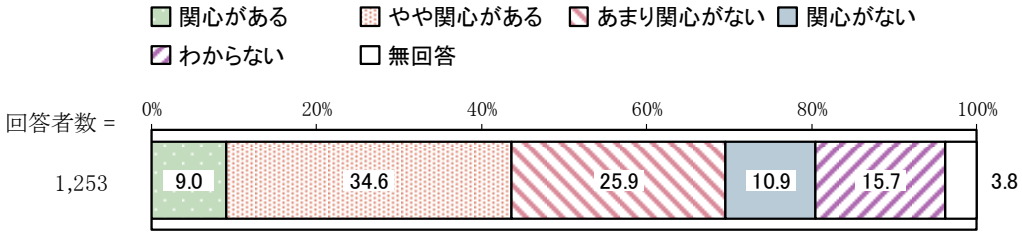
スポーツや運動をしなかった主な理由【複数回答】




### ④ 障がい者スポーツに関心があるか

「関心がある」「やや関心がある」の割合が 43.6%となっています。

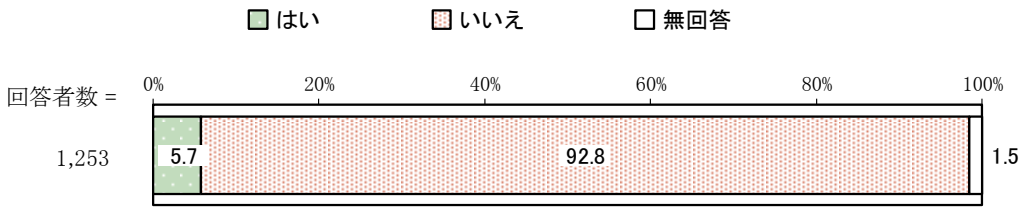
障がい者スポーツへの関心の有無



### ⑤ 障がい者スポーツを体験・経験したことがあるか

体験・経験したことがある割合が 5.7%と少なくなっています。

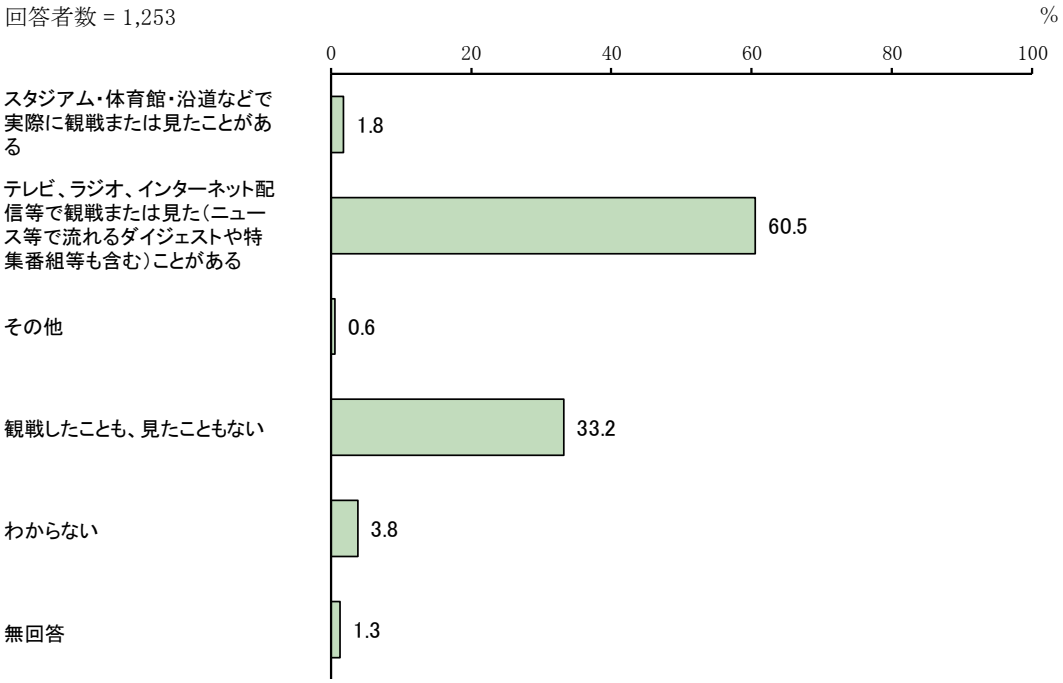
障がい者スポーツを体験・経験の有無




### ⑥ 障がい者スポーツやパラリンピック競技種目を観戦または見たことがあるか

テレビ、ラジオ、インターネット配信等も含めた「見た」は 62.3%と高くなっており、その中でも「実際に見た」は 1.8%とわずかになっています。

障がい者スポーツやパラリンピック競技種目を観戦または見たことがあるか【複数回答】



## （２）アスリートを育てる競技スポーツの推進

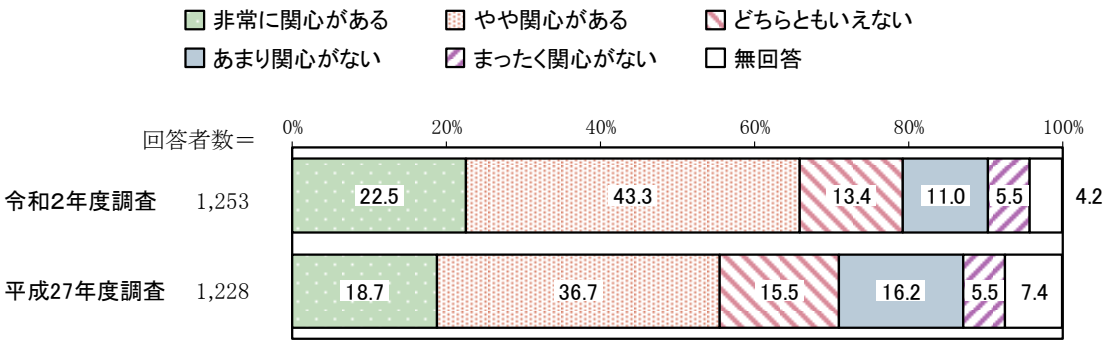
〈特徴〉

- 全国大会や国際大会に出場する選手や団体への関心は増加している。
- 袋井市のスポーツレベルの向上の必要性は、「もっと向上させる必要がある」が前回調査と比べ若干高く、約半数を占めている。その手法は、「施設の充実や環境の整備を図る」に次いで「指導者の資質向上を図る」、「選手への支援・協力」となっている。

### ① 本市から全国大会や国際大会に出場する選手や団体に関心がある方の割合

本市から全国大会や国際大会に出場する選手や団体に関心がある方の割合は、65.8%となっており、前回調査（平成 27 年実施）の 55.4%と比較し、10.4%増加しています。全国大会等で活躍することを期待している市民が多いことがうかがえます。

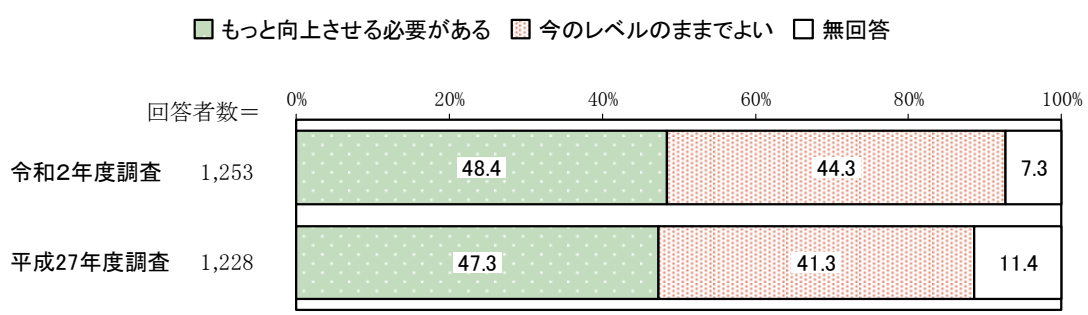
本市から全国大会や国際大会に出場する選手や団体に関心がある方の割合




### ② 今後、袋井市のスポーツレベル（競技力）をもっと向上させる必要があると思うか

「もっと向上させる必要がある」の割合が、前回調査（47.3%）と比較し若干高く、48.4%と約半数を占めています。

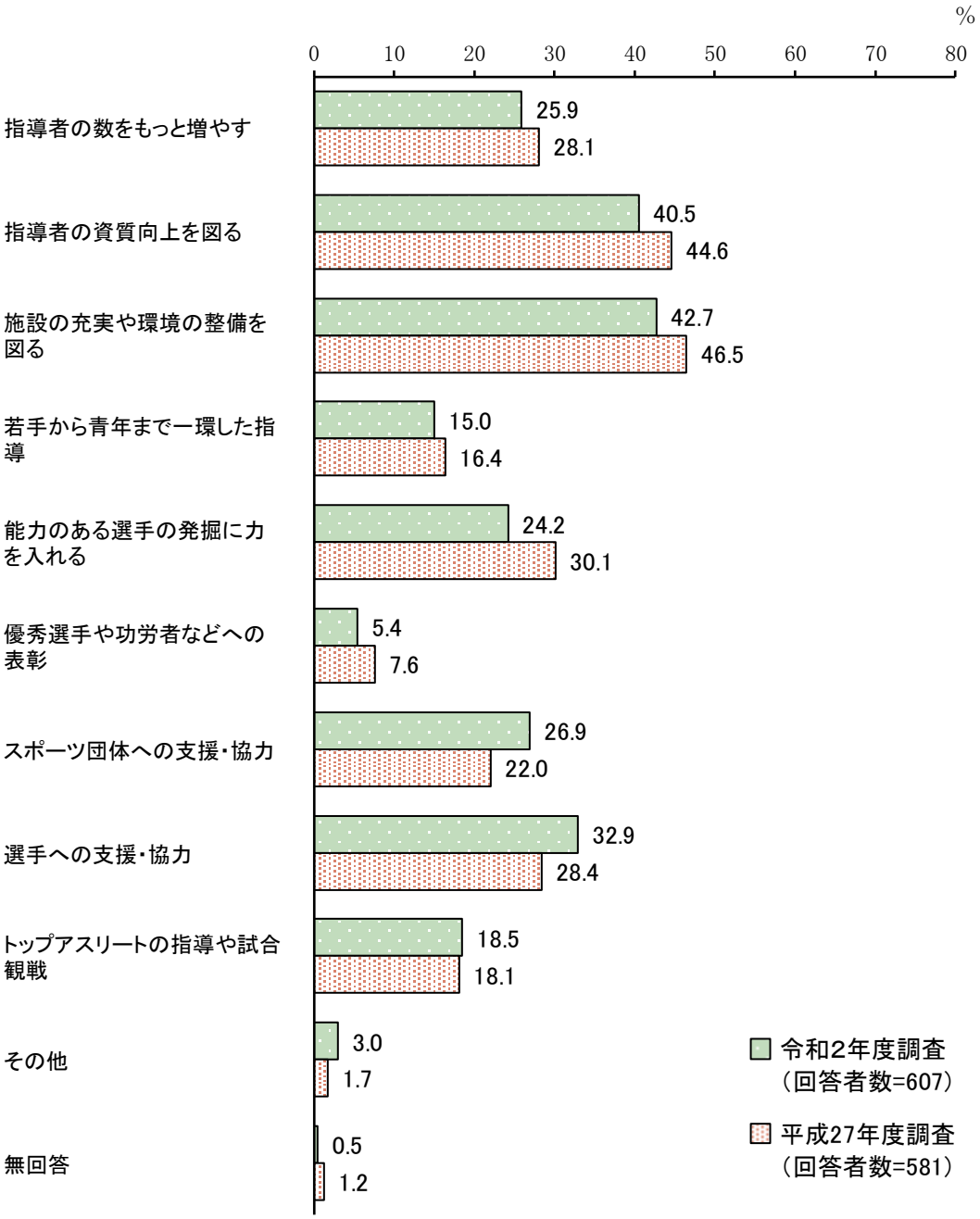
袋井市のスポーツレベル（競技力）をもっと向上させる必要があると思うか



### ③ 袋井市のスポーツレベル（競技力）をもっと向上させる手法

「施設の充実や環境の整備を図る」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「指導者の資質向上を図る」の割合が 40.5%、「選手への支援・協力」の割合が 32.9%となっています。

袋井市のスポーツレベル（競技力）をもっと向上させる手法【複数回答】



## （３）スポーツへの興味・関心の高まりとまちの活性化

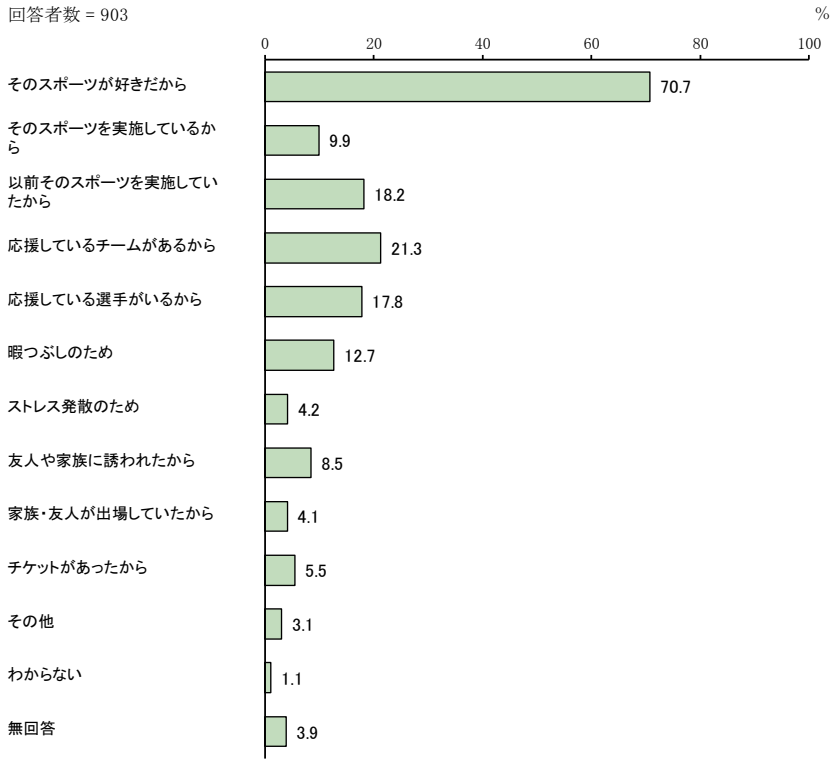
〈特徴〉

- スポーツを観戦した理由について「そのスポーツが好きだから」が最も高く、次いで「応援しているチームがあるから」「以前そのスポーツを実施していたから」「応援している選手がいるから」が高い。また、スポーツを観戦している方のスポーツ実施率が高い傾向にある。
- 観戦した競技は、「サッカー、フットサル」が最も多く、次いで「野球」「ラグビー」となっている。「サッカー、フットサル」「ラグビー」は、「実際に会場に見に行ったりしている」の割合が他の競技よりも高い。
- さわやかアリーナやエコパで開催を期待するイベントは、「プロスポーツの試合や国際大会」が最も高い。
- 市内で行われたスポーツ行事やスポーツ教室などの参加について、自治会やコミュニティセンターが主催する行事が最も高い。
- スポーツに期待する効果・役割は、「プロスポーツ・国際試合の誘致などに伴う地元経済の活性化」「余暇時間の有効利用」が同等で高い。
- スポーツ情報の発信方法は、「市発行の広報誌」が最も高く、次いで「インターネット・SNS」となっている。

### ① スポーツを観戦した理由

「そのスポーツが好きだから」の割合が 70.7%と最も高く、次いで「応援しているチームがあるから」「以前そのスポーツを実施していたから」「応援している選手がいるから」が高くなっています。また、スポーツを観戦している方のスポーツ実施率が高い傾向にあります。

スポーツを観戦した理由【複数回答】



## ② 年齢別のスポーツ観戦競技

70 歳以上を除くすべての年代で、「サッカー、フットサル」が最も多く、次いで「野球」「ラグビー」が多い傾向となっています。「サッカー、フットサル」「ラグビー」観戦者は、「実際に会場に見に行ったりしている」の割合が他の競技よりも高くなっています。

**年齢別のスポーツ観戦競技【複数回答】**

単位：%

| 区分 | 有効回答数（件） | 野球 | サッカー、フットサル | 相撲 | テニス | バレーボール | バスケットボール | モータースポーツ | 自転車 | ラグビー | 陸上競技 | マラソン、駅伝 | 水泳 | 体操、新体操 | スキー、スノーボード |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代以下 | 106 | 43.4 | 56.6 | 1.9 | 13.2 | 29.2 | 14.2 | 2.8 | － | 24.5 | 16.0 | 20.8 | 9.4 | 0.9 | 1.9 |
| 30 歳代 | 108 | 46.3 | 73.1 | 9.3 | 13.0 | 27.8 | 16.7 | 4.6 | 1.9 | 28.7 | 14.8 | 20.4 | 12.0 | 5.6 | 9.3 |
| 40 歳代 | 126 | 45.2 | 68.3 | 11.1 | 16.7 | 30.2 | 10.3 | 9.5 | 0.8 | 34.9 | 12.7 | 21.4 | 9.5 | 5.6 | 6.3 |
| 50 歳代 | 142 | 53.5 | 62.7 | 21.1 | 23.2 | 25.4 | 10.6 | 14.8 | 2.1 | 36.6 | 20.4 | 39.4 | 13.4 | 11.3 | 4.2 |
| 60 歳代 | 180 | 57.8 | 63.3 | 41.7 | 25.6 | 25.0 | 5.6 | 8.9 | 2.8 | 27.8 | 25.0 | 42.8 | 17.2 | 11.7 | 2.2 |
| 70 歳以上 | 227 | 61.2 | 45.8 | 59.9 | 20.7 | 32.6 | 5.3 | 4.0 | 2.2 | 20.3 | 24.2 | 53.7 | 22.9 | 19.4 | 5.3 |

| 区分 | スケート | 柔道 | 剣道 | 空手 | ゴルフ | ボクシング | レスリング | ボウリング | アメリカンフットボール | ソフトボール | 卓球 | バドミントン | 総合格闘技 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 歳代以下 | 11.3 | － | 0.9 | － | 7.5 | 3.8 | － | － | 0.9 | 0.9 | 2.8 | 4.7 | 2.8 | 2.8 | － |
| 30 歳代 | 11.1 | 6.5 | － | － | 5.6 | 12.0 | － | 0.9 | 1.9 | 2.8 | 12.0 | 2.8 | 12.0 | 2.8 | － |
| 40 歳代 | 20.6 | 3.2 | 3.2 | 1.6 | 9.5 | 12.7 | 1.6 | 3.2 | 1.6 | 1.6 | 10.3 | 7.9 | 11.9 | 2.4 | 0.8 |
| 50 歳代 | 21.1 | 9.2 | 1.4 | 1.4 | 23.9 | 7.7 | 3.5 | 2.1 | 0.7 | 5.6 | 12.0 | 4.9 | 5.6 | 2.1 | 0.7 |
| 60 歳代 | 18.9 | 5.0 | 1.7 | 1.1 | 27.8 | 8.3 | 1.1 | 2.8 | 1.7 | 2.8 | 22.2 | 13.3 | 4.4 | 1.7 | 0.6 |
| 70 歳以上 | 26.4 | 8.4 | 1.3 | 3.5 | 29.5 | 15.9 | 3.5 | 5.3 | 1.3 | 7.5 | 28.6 | 10.1 | 4.8 | 1.8 | 1.3 |

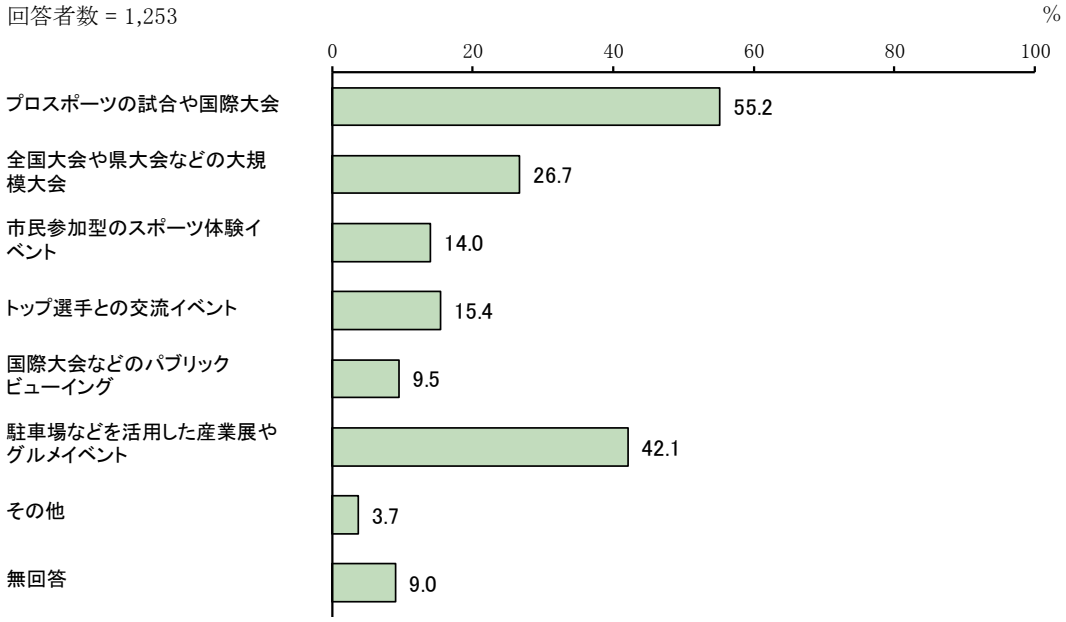
**性・年齢別のスポーツ観戦競技（上位３位）**

| | 1位 | | 2位 | | 3位 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 野球 | 64.1% | サッカー、フットサル | 59.0% | バレーボール | 28.2% |
| 30 歳代 | サッカー、フットサル | 81.8% | 野球 | 52.7% | ラグビー | 29.1% |
| 40 歳代 | サッカー、フットサル | 71.0% | 野球 | 53.2% | ラグビー | 25.8% |
| 50 歳代 | サッカー、フットサル | 74.7% | 野球 | 69.6% | マラソン、駅伝 | 38.0% |
| 60 歳代 | 野球 | 68.0% | サッカー、フットサル | 65.0% | 相撲 | 41.7% |
| 70 歳以上 | 野球 | 76.7% | 相撲 | 67.4% | マラソン、駅伝 | 58.1% |
| 女性　20 歳代以下 | サッカー、フットサル | 54.5% | 野球 | 31.8% | バレーボール | 30.3% |
| 30 歳代 | サッカー、フットサル | 64.2% | 野球 | 39.6% | バレーボール | 32.1% |
| 40 歳代 | サッカー、フットサル | 65.6% | ラグビー | 43.8% | 野球 | 37.5% |
| 50 歳代 | サッカー、フットサル | 47.6% | マラソン、駅伝 | 41.3% | スケート | 41.3% |
| 60 歳代 | サッカー、フットサル | 61.8% | マラソン、駅伝 | 44.7% | 野球 | 43.4% |
| 70 歳以上 | 相撲 | 50.0% | バレーボール | 49.0% | マラソン、駅伝 | 47.9% |

### ③ 今後、さわやかアリーナやエコパでどのようなイベントの開催を期待するか

「プロスポーツの試合や国際大会」が 55.2%と最も高く、次いで「駐車場などを活用した産業展やグルメイベント」が 42.1%となっています。

さわやかアリーナやエコパでどのようなイベントの開催を期待するか【複数回答】




### ④ 市内で行われたスポーツ行事やスポーツ教室などに参加した経験

男女ともにどの年齢も「参加しなかった」の割合が最も高くなっています。また、男女ともに 30 歳代以下で「行っていることを知らなかった」の割合が高くなっています。

性・年齢別の市内で行われたスポーツ行事やスポーツ教室などに参加した経験

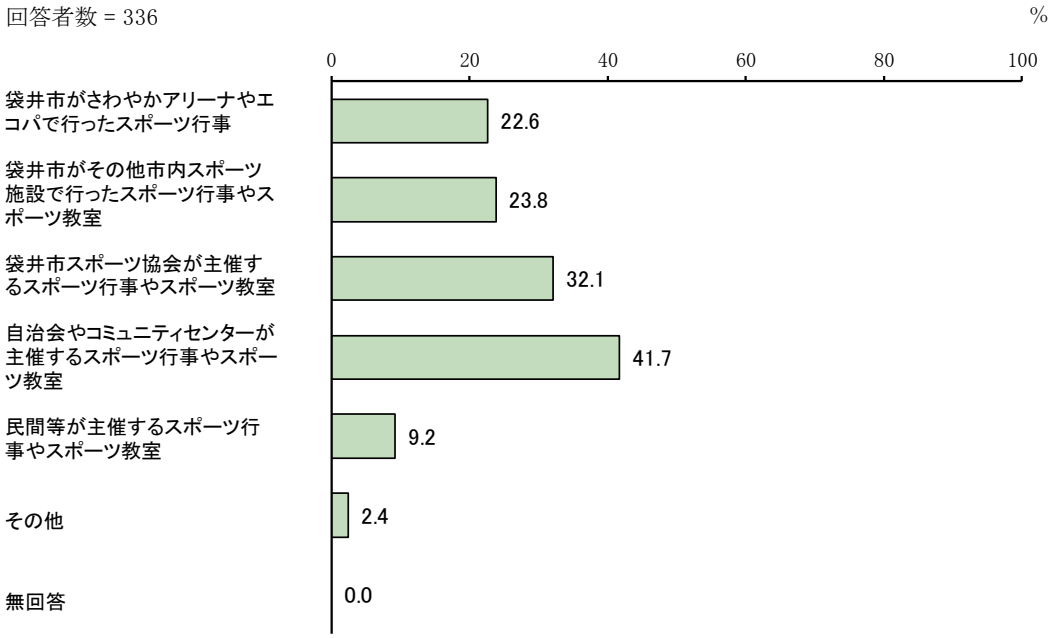
単位：%

| 区分 | 有効回答数（件） | 参加した | 見学だけした | 参加しなかった | 行っていることを知らなかった | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 60 | 21.7 | 5.0 | 46.7 | 26.7 | － |
| 30 歳代 | 76 | 14.5 | 2.6 | 56.6 | 25.0 | 1.3 |
| 40 歳代 | 83 | 36.1 | 1.2 | 41.0 | 19.3 | 2.4 |
| 50 歳代 | 102 | 25.5 | 2.0 | 56.9 | 15.7 | － |
| 60 歳代 | 124 | 25.0 | 6.5 | 53.2 | 12.1 | 3.2 |
| 70 歳以上 | 147 | 24.5 | 10.2 | 51.0 | 8.2 | 6.1 |
| 女性　20 歳代以下 | 117 | 21.4 | 1.7 | 41.9 | 35.0 | － |
| 30 歳代 | 100 | 27.0 | － | 42.0 | 31.0 | － |
| 40 歳代 | 92 | 31.5 | 4.3 | 46.7 | 15.2 | 2.2 |
| 50 歳代 | 92 | 35.9 | 5.4 | 46.7 | 8.7 | 3.3 |
| 60 歳代 | 104 | 39.4 | 4.8 | 40.4 | 13.5 | 1.9 |
| 70 歳以上 | 124 | 21.8 | 7.3 | 53.2 | 5.6 | 12.1 |

### ⑤ 市内で行われたスポーツ行事やスポーツ教室などに参加した方がどのようなイベントに参加したか

自治会やコミュニティセンターが主催する行事に参加した方が 41.7%と最も高くなっています。

市内で行われたスポーツ行事やスポーツ教室などに参加した方が
どのようなイベントに参加したか【複数回答】

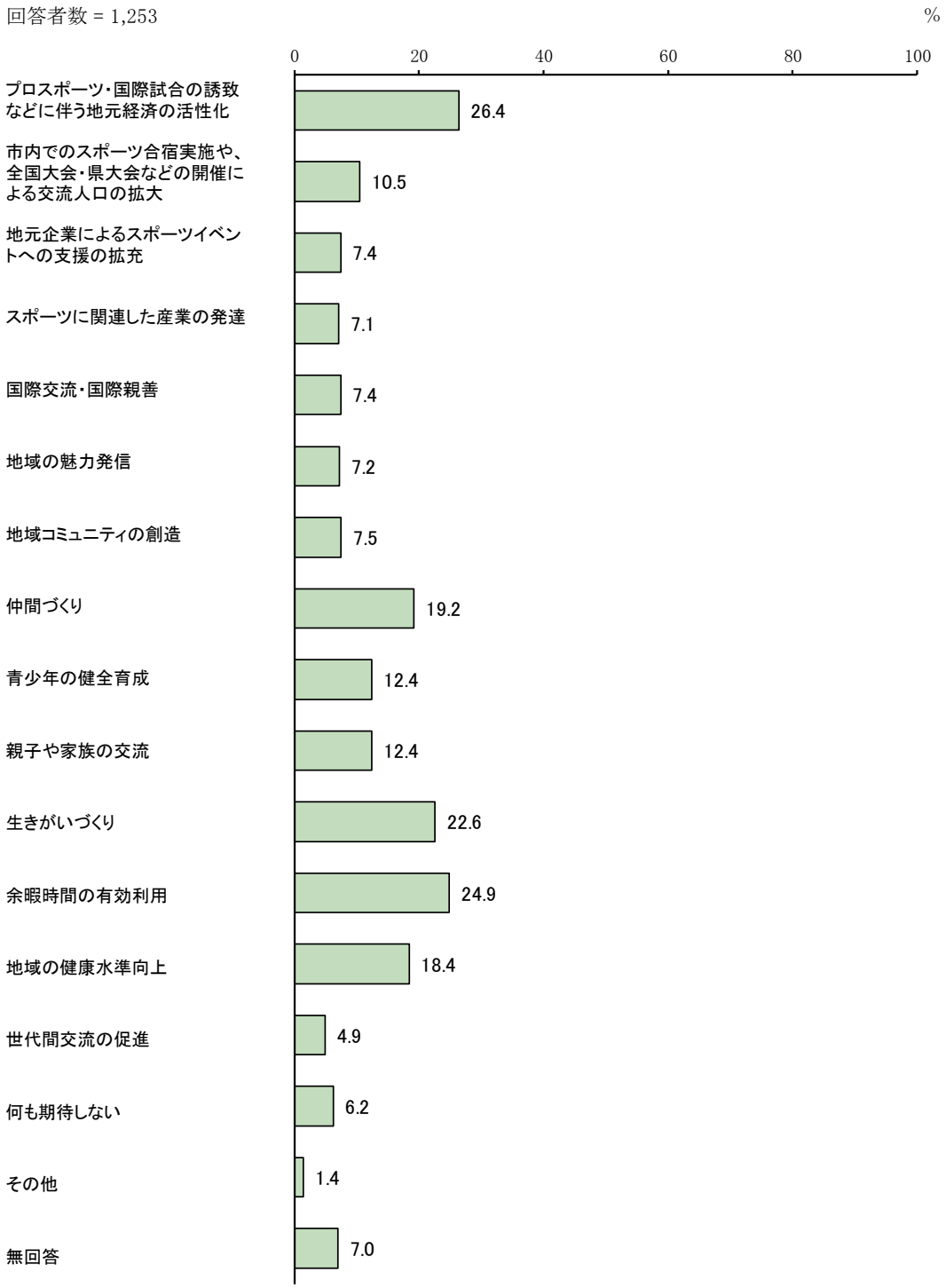


ウオーキングキャラバン

### ⑥ 今後、スポーツにどのような効果・役割を期待するか

「プロスポーツ・国際試合の誘致などに伴う地元経済の活性化（26.4%）」「余暇時間の有効利用（24.9%）」が高く、このことからまちと自身への効果を同等に求めていると考えられます。

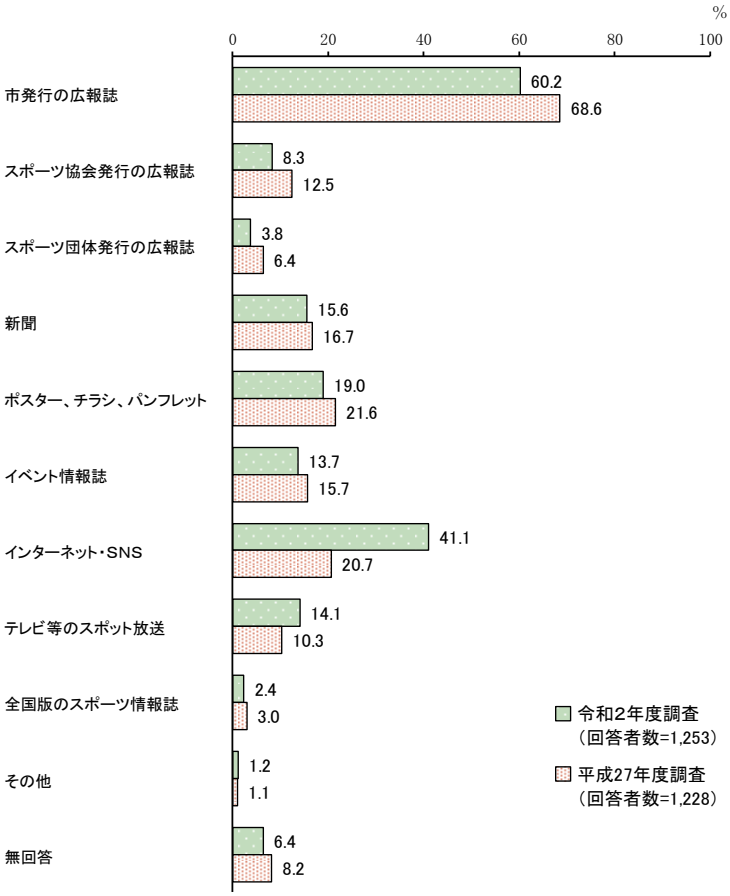
今後、スポーツにどのような効果・役割を期待するか【複数回答】



### ⑦ 今後、袋井市のスポーツ情報がどのような形で発信されるのが望ましいか

「市発行の広報誌」が 60.2%と最も高く、次いで「インターネット・SNS」が 41.1%となっています。性・年齢別でみると、男女ともに 20 歳代以下で「インターネット・ＳＮＳ」の割合が、60 歳代で「市発行の広報誌」の割合が高くなっています。

今後、袋井市のスポーツ情報がどのような形で発信されるのが望ましいか【複数回答】




性・年齢別の今後、袋井市のスポーツ情報がどのような形で発信されるのが望ましいか【複数回答】

単位：%

| 区分 | 有効回答数（件） | 市発行の広報誌 | スポーツ協会発行の広報誌 | スポーツ団体発行の広報誌 | 新聞 | ポスター、チラシ、パンフレット | イベント情報誌 | インターネット・ＳＮＳ | テレビ等のスポット放送 | 全国版のスポーツ情報誌 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 60 | 43.3 | 10.0 | 1.7 | 18.3 | 21.7 | 8.3 | 68.3 | 15.0 | 8.3 | － | 6.7 |
| 30 歳代 | 76 | 47.4 | 3.9 | 7.9 | 9.2 | 22.4 | 13.2 | 63.2 | 22.4 | 5.3 | 3.9 | 3.9 |
| 40 歳代 | 83 | 50.6 | 8.4 | 2.4 | 14.5 | 15.7 | 9.6 | 56.6 | 15.7 | 4.8 | － | 1.2 |
| 50 歳代 | 102 | 52.9 | 5.9 | 4.9 | 18.6 | 16.7 | 8.8 | 64.7 | 10.8 | 2.9 | 2.0 | 2.9 |
| 60 歳代 | 124 | 70.2 | 12.1 | 6.5 | 15.3 | 18.5 | 18.5 | 22.6 | 11.3 | － | 2.4 | 8.1 |
| 70 歳以上 | 147 | 63.3 | 15.6 | 3.4 | 27.9 | 15.0 | 15.6 | 11.6 | 10.2 | 2.0 | 0.7 | 14.3 |
| 女性　20 歳代以下 | 117 | 44.4 | 0.9 | 4.3 | 12.0 | 24.8 | 17.1 | 70.1 | 27.4 | 2.6 | － | 0.9 |
| 30 歳代 | 100 | 62.0 | 2.0 | － | 6.0 | 18.0 | 14.0 | 63.0 | 13.0 | 1.0 | － | 2.0 |
| 40 歳代 | 92 | 60.9 | 3.3 | 1.1 | 17.4 | 21.7 | 12.0 | 51.1 | 19.6 | 3.3 | 1.1 | 1.1 |
| 50 歳代 | 92 | 70.7 | 13.0 | 6.5 | 14.1 | 19.6 | 20.7 | 41.3 | 15.2 | 4.3 | 1.1 | 4.3 |
| 60 歳代 | 104 | 81.7 | 13.5 | 1.9 | 17.3 | 18.3 | 11.5 | 19.2 | 8.7 | － | 1.9 | 4.8 |
| 70 歳以上 | 124 | 65.3 | 8.9 | 4.8 | 11.3 | 21.0 | 9.7 | 6.5 | 7.3 | － | 1.6 | 16.1 |

## （４）スポーツ活動を支える組織の強化と人材育成

〈特徴〉

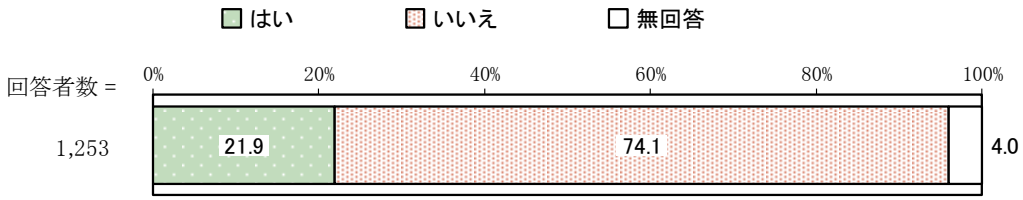
- スポーツの大会やイベントにボランティアとして参加したことがある割合は低い。また、スポーツや運動に対しての関わり合いや貢献についても「したいと思わない」が最も高く（55.7%）、前回調査（平成 27 年実施）の 53.3%から 2.4%増加しています。
- スポーツや運動クラブ等へ加入している人は減少している。
- 新たにスポーツクラブ、同好会、教室に加入する場合の望ましいあり方について、「定期的・継続的にスポーツ活動を体験できる」「子どもから高齢者までの各年齢層が参加できる」「数多くのスポーツ種目が体験できる」が高い。

### ① スポーツの大会やイベントにボランティアとして参加したことがあるか

「はい」の割合が 21.9%と低調な数値となっています。

性・年齢別でみると、男女ともに 20 歳代以下で「はい」の割合が高くなっています。

スポーツの大会やイベントにボランティアとして参加の有無




性・年齢別のスポーツの大会やイベントにボランティアとして参加の有無

単位：%

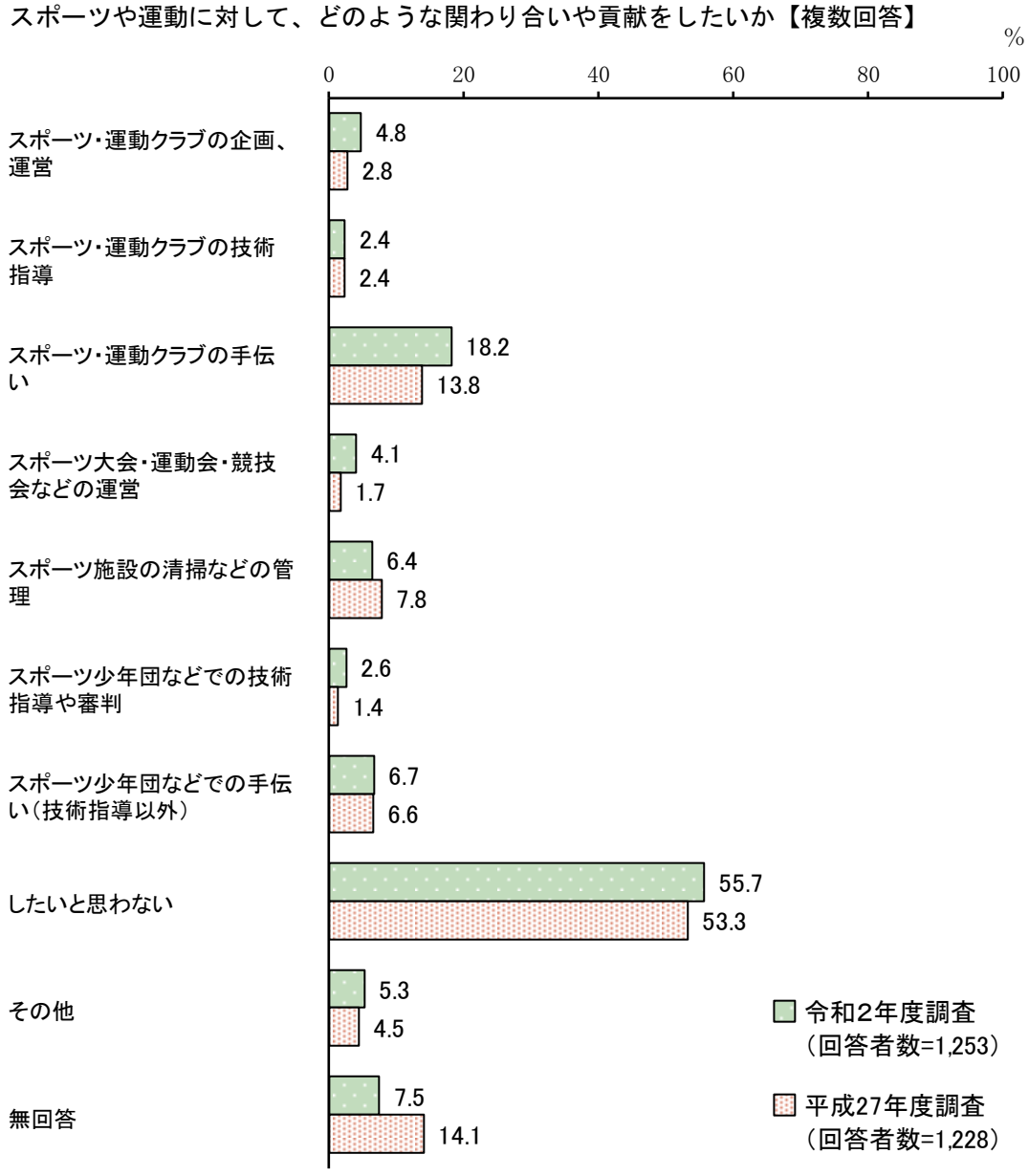
| 区分 | 有効回答数（件） | はい | いいえ | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 60 | 38.3 | 58.3 | 3.3 |
| 30 歳代 | 76 | 17.1 | 78.9 | 3.9 |
| 40 歳代 | 83 | 25.3 | 72.3 | 2.4 |
| 50 歳代 | 102 | 26.5 | 71.6 | 2.0 |
| 60 歳代 | 124 | 29.0 | 67.7 | 3.2 |
| 70 歳以上 | 147 | 25.9 | 66.0 | 8.2 |
| 女性　20 歳代以下 | 117 | 30.8 | 68.4 | 0.9 |
| 30 歳代 | 100 | 24.0 | 75.0 | 1.0 |
| 40 歳代 | 92 | 15.2 | 83.7 | 1.1 |
| 50 歳代 | 92 | 15.2 | 82.6 | 2.2 |
| 60 歳代 | 104 | 12.5 | 82.7 | 4.8 |
| 70 歳以上 | 124 | 8.9 | 82.3 | 8.9 |

② スポーツや運動に対して、どのような関わり合いや貢献をしたいかについて

「したいと思わない」の割合が55.7%と最も高くなっています。

性・年齢別でみると、男女ともにどの年齢も「したいと思わない」の割合が最も高くなっています。

スポーツや運動に対して、どのような関わり合いや貢献をしたいか【複数回答】



性・年齢別のスポーツや運動に対して、どのよう関わり合いや貢献をしたいか【複数回答】

単位：％

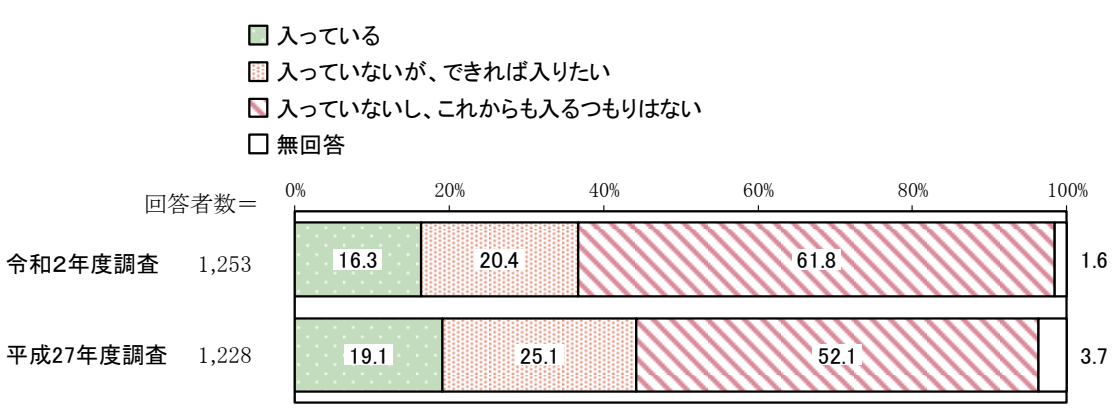
| 区分 | 有効回答数（件） | スポーツ・運動クラブの企画、運営 | スポーツ・運動クラブの技術指導 | スポーツ・運動クラブの手伝い | スポーツ大会・運動会・競技会などの運営 | スポーツ施設の清掃などの管理 | スポーツ少年団などでの技術指導や審判 | スポーツ少年団などでの手伝い（技術指導以外） | したいと思わない | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性　20歳代以下 | 60 | 18.3 | 6.7 | 28.3 | 8.3 | 10.0 | 10.0 | 8.3 | 43.3 | 1.7 | 3.3 |
| 30歳代 | 76 | 9.2 | 5.3 | 17.1 | 3.9 | 5.3 | 2.6 | 6.6 | 64.5 | － | 6.6 |
| 40歳代 | 83 | 7.2 | 6.0 | 10.8 | 7.2 | 6.0 | 8.4 | 13.3 | 54.2 | 2.4 | 2.4 |
| 50歳代 | 102 | 2.9 | 2.9 | 16.7 | 3.9 | 2.9 | 3.9 | 7.8 | 65.7 | 2.0 | 1.0 |
| 60歳代 | 124 | 4.8 | 2.4 | 22.6 | 4.8 | 6.5 | 1.6 | 6.5 | 54.0 | 3.2 | 8.1 |
| 70歳以上 | 147 | 2.7 | 2.0 | 21.8 | 4.1 | 6.8 | 2.7 | 4.8 | 46.9 | 8.8 | 12.2 |
| 女性　20歳代以下 | 117 | 9.4 | 2.6 | 26.5 | 8.5 | 4.3 | 2.6 | 11.1 | 53.8 | 2.6 | － |
| 30歳代 | 100 | 2.0 | 2.0 | 14.0 | 3.0 | 6.0 | 1.0 | 13.0 | 61.0 | 3.0 | 4.0 |
| 40歳代 | 92 | 4.3 | 1.1 | 30.4 | 5.4 | 5.4 | 2.2 | 8.7 | 55.4 | 2.2 | 2.2 |
| 50歳代 | 92 | 4.3 | 1.1 | 16.3 | 2.2 | 4.3 | － | 3.3 | 60.9 | 9.8 | 6.5 |
| 60歳代 | 104 | 1.0 | － | 14.4 | 1.0 | 14.4 | － | 1.9 | 55.8 | 9.6 | 9.6 |
| 70歳以上 | 124 | － | － | 1.6 | － | 6.5 | 0.8 | 0.8 | 54.0 | 13.7 | 24.2 |

### ③ スポーツや運動クラブ等へ加入している人の割合

加入している人の割合は、16.3%となっており、前回調査（平成 27 年実施）の19.1%から 2.8%減少しています。ウオーキングやランニングなど、いつでも手軽にできる個人スポーツが好まれる傾向にあるため、スポーツや運動クラブ等への加入が進んでいない状況が考えられます。

性・年齢別でみると、男女ともにどの年齢も「入っていないし、これからも入るつもりはない」の割合が最も高くなっています。

スポーツや運動クラブ等への加入している人の割合



性・年齢別のスポーツや運動クラブ等への加入している人の割合

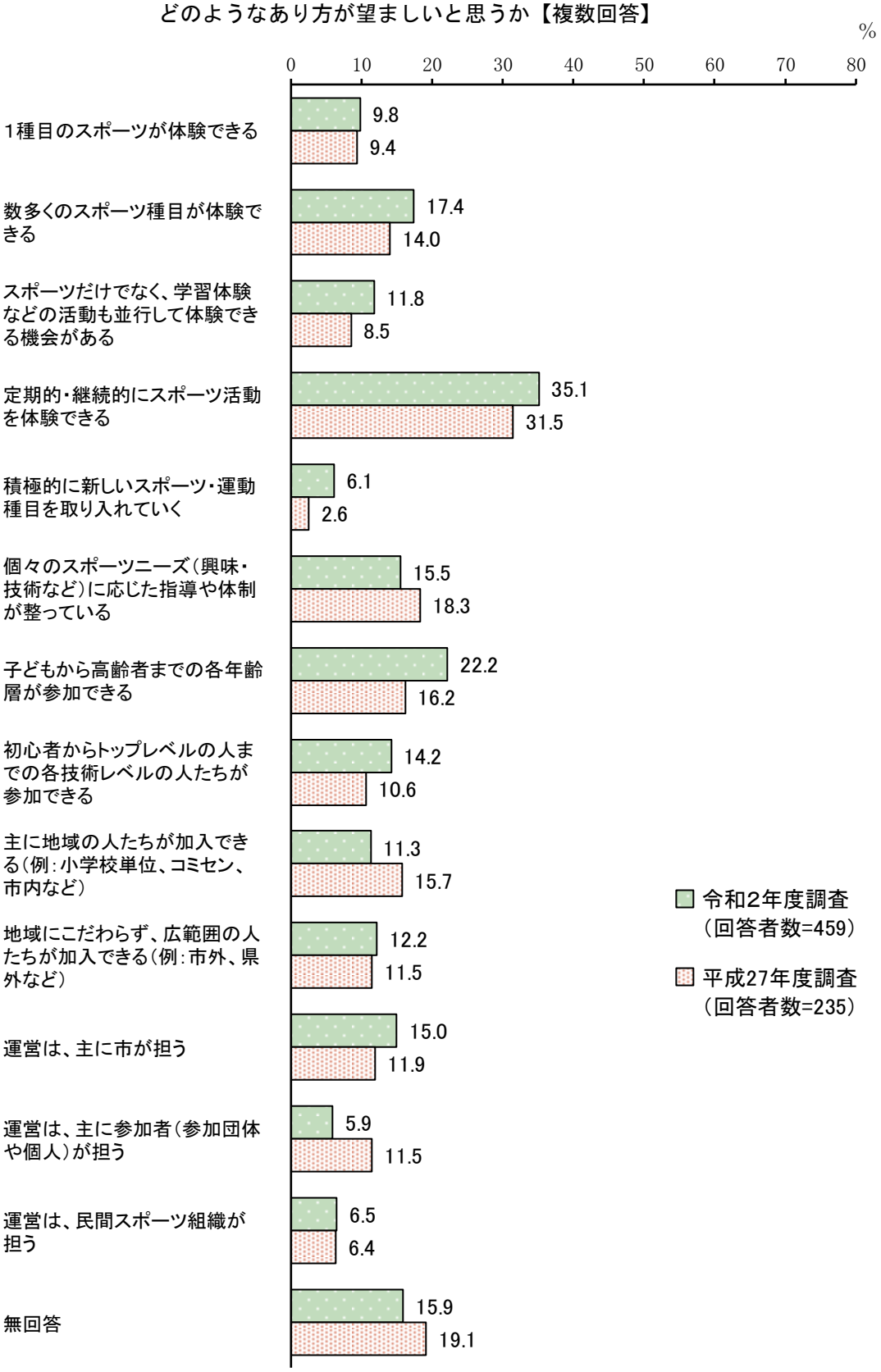
単位：％

| 区分 | 有効回答数（件） | 入っている | 入っていないが、できれば入りたい | 入っていないし、これからも入るつもりはない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男性　20歳代以下 | 60 | 11.7 | 25.0 | 61.7 | 1.7 |
| 30歳代 | 76 | 14.5 | 19.7 | 65.8 | － |
| 40歳代 | 83 | 13.3 | 12.0 | 72.3 | 2.4 |
| 50歳代 | 102 | 10.8 | 18.6 | 70.6 | － |
| 60歳代 | 124 | 13.7 | 24.2 | 60.5 | 1.6 |
| 70歳以上 | 147 | 23.1 | 11.6 | 62.6 | 2.7 |
| 女性　20歳代以下 | 117 | 8.5 | 18.8 | 71.8 | 0.9 |
| 30歳代 | 100 | 10.0 | 23.0 | 66.0 | 1.0 |
| 40歳代 | 92 | 7.6 | 37.0 | 55.4 | － |
| 50歳代 | 92 | 17.4 | 26.1 | 55.4 | 1.1 |
| 60歳代 | 104 | 26.9 | 24.0 | 48.1 | 1.0 |
| 70歳以上 | 124 | 28.2 | 12.1 | 54.0 | 5.6 |

### ④ 今後、新たにスポーツクラブ、同好会、教室に加入するとした場合、どのようなあり方が望ましいと思うか

「定期的・継続的にスポーツ活動を体験できる」の割合が 35.1%、「子どもから高齢者までの各年齢層が参加できる」の割合が 22.2%、「数多くのスポーツ種目が体験できる」の割合が 17.4%、「個々のスポーツニーズ（興味・技術など）に応じた指導や体制が整っている」の割合が 15.5%となっていることから、ライフステージのスポーツニーズに応じて定期的・継続的に参加でき、多様なスポーツニーズに対応できるスポーツクラブ等が求められていることがうかがえます。

今後、新たにスポーツクラブ、同好会、教室に加入するとした場合、
どのようなあり方が望ましいと思うか【複数回答】



## （５）誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の整備

〈特徴〉

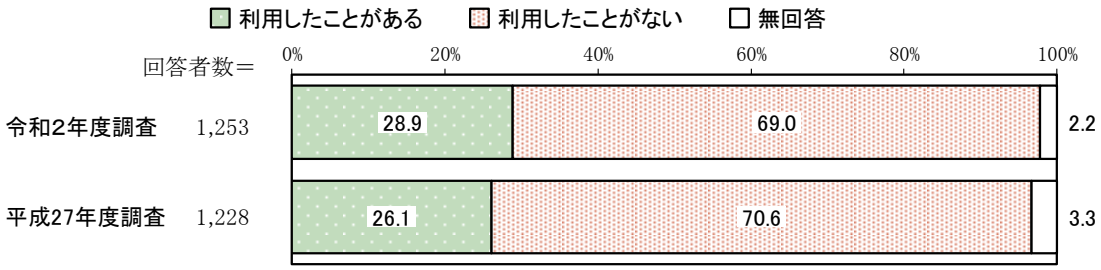
- この１年間で袋井市にある公共スポーツ施設を「利用したことがない」がおよそ７割となっている。
- 公共スポーツ施設利用について利用経験がある方の満足度は、「十分満足」「まあまあ満足」が高く、「やや不満」「不満」は低い。また、利用しなかった理由については、「利用する機会・必要がなかった」が最も高くなっている一方、袋井市の公共スポーツ施設の充実について、「数も質も充実している」の割合が最も高い。

### ① この１年間で、袋井市にある公共スポーツ施設（さわやかアリーナ、市民体育館、体育センター、エコパ、Ｂ＆Ｇ海洋センターなど）を利用したことがあるか

「利用したことがない」の割合が、69.0%と高くなっています。前回調査（70.6%）からほぼ横ばいで推移しています。

性・年齢別でみると、男女ともに年齢が高くなるにつれ「利用したことがない」の割合が高くなる傾向がみられます。

この１年間で、袋井市にある公共スポーツ施設（さわやかアリーナ、市民体育館、体育センター、エコパ、Ｂ＆Ｇ海洋センターなど）を利用したことがあるか




性・年齢別のこの１年間で、袋井市にある公共スポーツ施設（さわやかアリーナ、市民体育館、体育センター、エコパ、Ｂ＆Ｇ海洋センターなど）を利用したことがあるか

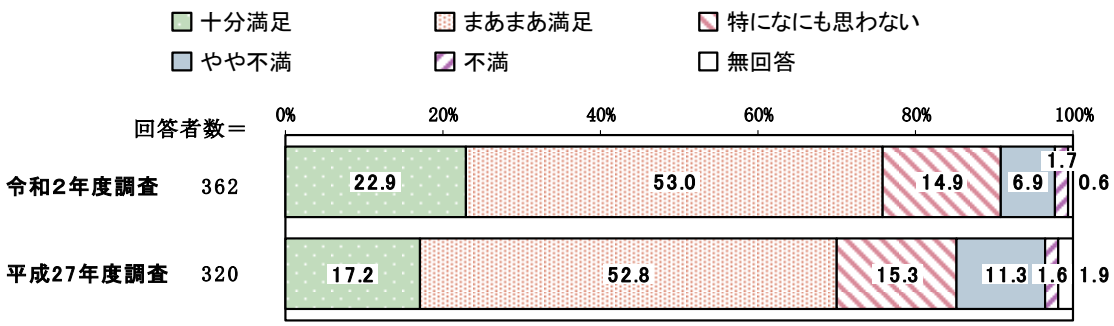
単位：%

| 区分 | 有効回答数（件） | 利用したことがある | 利用したことがない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 男性　20 歳代以下 | 60 | 36.7 | 61.7 | 1.7 |
| 30 歳代 | 76 | 39.5 | 60.5 | － |
| 40 歳代 | 83 | 31.3 | 67.5 | 1.2 |
| 50 歳代 | 102 | 25.5 | 74.5 | － |
| 60 歳代 | 124 | 24.2 | 75.0 | 0.8 |
| 70 歳以上 | 147 | 17.0 | 78.9 | 4.1 |
| 女性　20 歳代以下 | 117 | 35.9 | 63.2 | 0.9 |
| 30 歳代 | 100 | 45.0 | 54.0 | 1.0 |
| 40 歳代 | 92 | 35.9 | 63.0 | 1.1 |
| 50 歳代 | 92 | 31.5 | 68.5 | － |
| 60 歳代 | 104 | 26.9 | 72.1 | 1.0 |
| 70 歳以上 | 124 | 13.7 | 77.4 | 8.9 |

### ② 公共スポーツ施設の満足度

施設利用経験がある方のうち、施設に満足している人の割合は、「十分満足」「まあまあ満足」が 75.9%と高く、「やや不満」「不満」が 8.6%と低くなっています。

公共スポーツ施設の満足度について

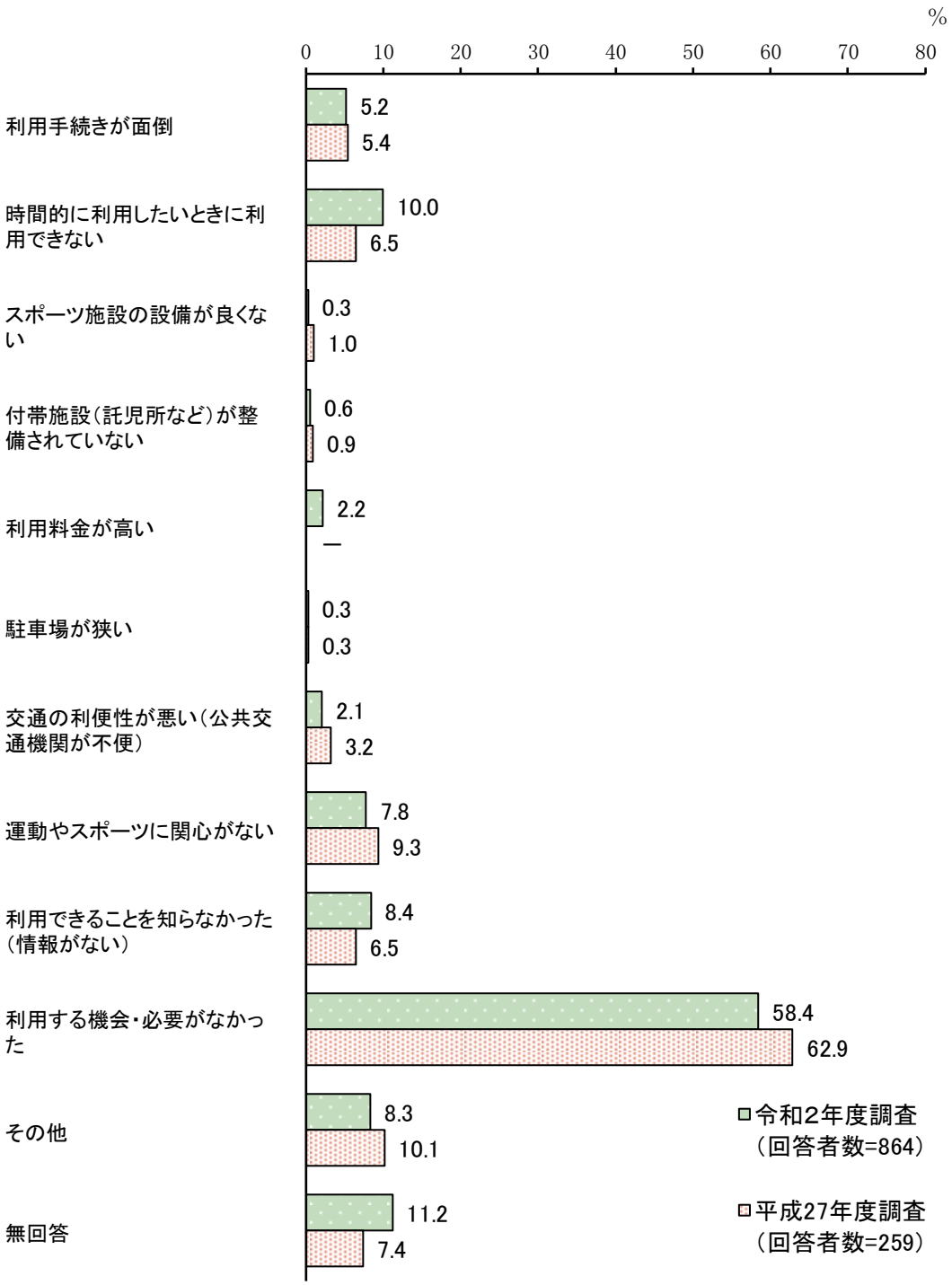


浅羽球技場

### ③ 公共スポーツ施設を利用しなかった理由

「利用する機会・必要がなかった」が58.4%と最も高くなっています。

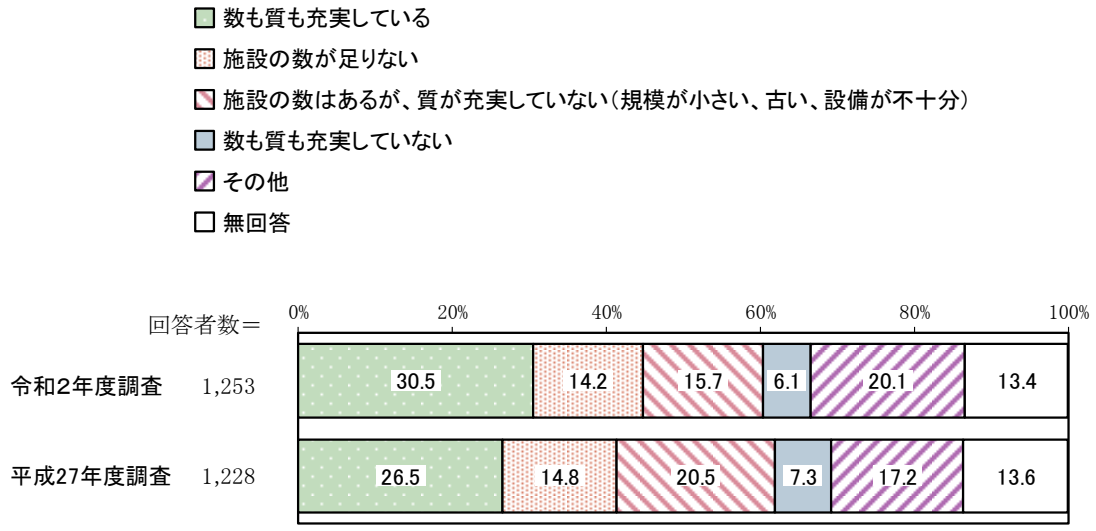
公共スポーツ施設を利用しなかった理由【複数回答】



### ④ 袋井市の公共スポーツ施設（学校体育施設は除く）は充実していると思うか

「数も質も充実している」の割合が 30.5%と最も高くなっています。

袋井市の公共スポーツ施設（学校体育施設は除く）は充実していると思うか



袋井 B&G 海洋センター

## 3 前期計画の検証・評価と現状

本市では、第３次袋井市スポーツ推進計画に基づき、「するスポーツ」、「観るスポーツ」、「支える（育てる）スポーツ」を施策の３本柱として、（１）生涯スポーツの推進、（２）アスリートを育てる競技スポーツの推進、（３）スポーツへの興味・関心の高まりとまちの活性化、（４）スポーツ活動を支える組織の強化と人材育成、（５）誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の整備、を目標に各種施策を展開してきました。

各目標に対する検証・評価結果と現状は以下のとおりです。

◎・・・目標値に達成した
○・・・目標値に達成していないが、前期計画開始時と比較して向上
△・・・前期計画開始時と同等または若干低下
×・・・前期計画開始時と比較し低下

### ① 生涯スポーツの推進

| 評価指標 | 基準値（平成 26 年） | 現状値（令和元年） | 目標値（令和２年） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| 成人のスポーツ実施率（週１回以上） | 41.9% | 57.8%（令和２年） | 55.0% | ◎ |
| 新体力テストで全国の平均を上回る種目の割合（小５・中２） | 78.1% | 37.5% | 90.0% | × |

※平成 26 年は 20 歳以上、令和元年からは 18 歳以上を成人としています。

**【現状】**

- 親子スポーツ教室は、平成 31（令和元）年度で 25 組参加しており、年間 10 回程度取り組んでいる。参加者は、リピーターが多い。
- 平成 29 年度に健康ポイントシステム「＃2961（ふくろい）ウオーク」のポイントの付与により、健康づくりに取り組むきっかけとなるよう推進している。年代別参加者数では、目的である働く世代（30～50 歳代）の参加が多くなっているが、継続的に利用している方の割合が全体の 30%程度にとどまっている。
- スポーツ実施率が向上している一方で、クラウンメロンマラソンの参加者は平成 31（令和元）年度は約 7,000 人で、平成 28 年度から 1,000 人程度減少、袋井市駅伝大会、東海道五十三次どまん中ふくろいウオークなども参加者は減少しており、イベントへの参加よりも個人的な活動が増加傾向にある。
- スポーツイベントへのエアロビック講師の派遣を行ってきたが、講師の派遣を希望する団体や施設が少なくなっている。
- 新体力テストで全国の平均を上回る種目の割合が 32 項目中 12 項目（37.5%）と少なく、市内の小中学生の運動能力の低下が顕著である。

## ② アスリートを育てる競技スポーツの推進

| 評価指標 | 基準値（平成 26 年） | 現状値（令和元年） | 目標値（令和２年） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| 全国スポーツ大会の出場者数 | 61 件 | 59 件 | 90 件 | △ |
| スポーツ指導者育成事業助成金交付件数 | 18 件 | 9 件 | 25 件 | × |

【現状】

・全国大会に出場する選手・団体に対し助成金を交付しており、平成 31（令和元）年度は 59 件 435,000 円を交付した。

・全国スポーツ大会への出場者数は、平成 24 年度の 85 件をピークに平成 31（令和元）年度は 59 件と減少している。

・新規にスポーツ指導者の資格を取得した者に交付する助成金は、平成 31（令和元）年で 9 件と基準値と比較すると低調である。新規資格取得者に対して周知が難しく、助成金制度の認知度が低い。

アスリートの市長表敬訪問

### ③ スポーツへの興味・関心の高まりとまちの活性化

| 評価指標 | 基準値（平成 26 年） | 現状値（令和元年） | 目標値（令和２年） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| エコパでトップアスリーによる大会が行われた場合の観戦やテレビ・ラジオで視聴する割合 | 50.3% | ※ | 60.0% | － |

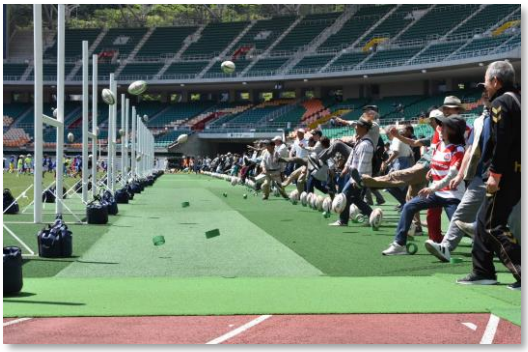
※同様の質問項目がなく比較不可

【参考】第４次袋井市スポーツ推進計画策定等に係る市民意識調査より

「あなたはこの１年で、さわやかアリーナ、または、エコパで競技スポーツを観戦したことが何回ありますか」で１回以上は 27.1%、「あなたは、スポーツを観戦したり、インターネットやテレビで見たり、ラジオで聴いたりすることがありますか。」は 72.1%

【現状】

- 東京 2020 オリンピックに伴うアイルランドオリンピックチームの事前キャンプの受入が決定した。プレキャンプの受入時には、選手の練習環境をサポートするとともに、選手と小中学生の交流機会の創出に努めている。
- ラグビーワールドカップ 2019™関連事業として、2,000 人規模の市民参加型のイベントを複数回開催し、機運醸成を図った。大会も大盛況のうちに閉会したが、一過性とならないようラグビー啓発事業を継続して実施している。
- 市内のスポーツイベントや教室等の情報を市や市スポーツ協会の広報誌、ホームページなどで情報発信している。しかしながら、特にホームページについて情報量が十分とは言えない状況であり、ホームページの内容の充実と併せて SNS の有効活用等の検討が必要である。



RWC2019™　機運醸成事業
（2019 人ラグビー“キック”チャレンジ）

### ④ スポーツ活動を支える組織の強化と人材育成

| 評価指標 | 基準値（平成 26 年） | 現状値（令和元年） | 目標値（令和２年） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| スポーツボランティア登録数 | 66 人 | 27 人 | 90 人 | × |

【現状】

・指定管理者との連携により開催しているニュースポーツフェスティバルは、気軽にニュースポーツに親しむことができる機会であるが、利用施設が手狭なため、開催できるスポーツが限られ、イベントの内容に変化がないのが現状である。

・スポーツ推進委員については、資質向上を目的に、積極的にニュースポーツやラジオ体操の講習を受け、地域への出前指導やデカスポテニスの大会運営補助などができるよう技術取得のほか地域への普及活動へ取り組んでいる。

・スポーツボランティアについては、市スポーツ協会ボランティア委員会との連携により、クラウンメロンマラソン等で活動しているが、メンバーの高齢化が進んでおり、メンバーの確保も困難となっている。

### ⑤ 誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の整備

| 評価指標 | 基準値（平成 26 年） | 現状値（令和元年） | 目標値（令和２年） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| 市内運動施設の利用者数 | 662,972 人 | 551,962 人 | 720,000 人 | △ |

【現状】

・市民体育館の老朽化に伴い、これに代わる施設として総合体育館を PFI 手法により整備した。

・コミュニティ広場や、多目的運動広場など、市民が身近にスポーツを行える環境の提供を行ってきたが、施設・設備の老朽化が進んでおり、維持管理の経費が増加している。

・指定管理施設についても、老朽化が進んでいる。また、施設によって採算が取れている施設と取れていない施設がある。

# 4 課題のまとめ

## （１）生涯スポーツの推進

**◆＃２９６１ウオークの更なる普及・利便性向上**

市では健康ポイントシステム「＃2961（ふくろい）ウオーク」を開発し、ポイントの付与により、健康づくりに取り組むきっかけとなるよう推進しています。目的である働く世代（30～50 歳代）の参加が多くなっているものの、全体の継続利用者の割合が低調であるため、ポイントの交換メニューの充実や、アプリの使い易さ、気軽さ等を向上させる方策を検討していく必要があります。

**◆働く世代・子育て世代の運動・スポーツ習慣の定着化とイベントの在り方の見直し**

市民アンケートからみると、ウオーキングや体操など気軽にできる生涯スポーツの啓発により、シニア世代でのスポーツ実施率は高くなっていますが、依然として子育てや仕事などで忙しい 30～40 歳代のスポーツ実施率が低くなっています。各世代のニーズを的確に把握し、気軽に参加できる教室や講座などのスポーツ機会の充実を図る必要があると同時に、気軽に好きなスポーツにふれることがスポーツを実施するきっかけとなる傾向もみられることから、「するスポーツ」に関連するイベントはもとより、「観るスポーツ」に関連する施策の展開により、運動・スポーツ習慣の定着化に繋げていく必要があります。

**◆少人数から大人数までのイベントなどの在り方の見直し**

スポーツ実施率が向上し、その中でも個人でウオーキングやランニングをする方が増加している一方で、クラウンメロンマラソンや袋井市駅伝大会、どまん中ふくろいウオークの参加者は減少傾向にあります。ウオーキングやランニング愛好者のニーズに応じたイベントの実施方法や在り方を検討する必要があります。

また、スポーツクラブの加入率が低下する一方で、定期的・継続的にスポーツ活動が体験できるクラブや様々な年齢層が参加できるクラブに対するニーズに対して、地域スポーツクラブの新たな在り方を検討するとともに、総合型地域スポーツクラブの活動機会の拡大が必要と考えられます。

**◆子どもの運動能力向上に向けた土台形成**

新体力テストにおける全国の平均を上回る種目の割合が 37.5%と低調であることから、体育の授業や地域などでの小中学生のスポーツ環境の充実を図ることはもとより、幼児期から楽しく運動あそびに触れ、スポーツ習慣の土台形成に繋がる方策を検討する必要があります。

**◆障がい者スポーツを支える体制の強化と触れる機会の充実**

障がい者スポーツについては、関心が高まりつつあるものの、実際の競技体験や会場で観戦する機会が非常に少ない状況であるため、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機に、各競技の普及啓発や、障がいの有無などに関わらず、誰もがパラスポーツを体験できる機会の充実に努めることが求められます。また、競技者への支援体制を強化する必要もあります。

## （２）アスリートを育てる競技スポーツの推進

**◆トップアスリートを育成・支援する環境の充実**

市民アンケートからみると、本市から全国大会や国際大会に出場する選手や団体に関心がある人の割合が前回調査よりも 10.4%も増加をしており、市民の競技スポーツへの関心の裾野が広がってきていますが、一方で、全国スポーツ大会の出場者数は、平成 24 年度の 85 件をピークに平成 27 年度から平成 31（令和元）年度までは 60 件前後と横ばいの状況となっていることから、市をあげて各種大会で活躍できるトップアスリートを育成・支援する環境の充実を図っていく必要があります。

**◆ジュニア期からの優秀な指導者の確保と指導環境の充実**

ジュニア期からトップアスリートや優秀な指導者の指導を受けられる機会の充実を図るとともに、競技間や世代間などでの情報交換の場を充実させることが重要であり、指導者の助成制度の見直しや講習会の充実などにより、更なる指導者育成体制の整備が求められています。同時に、既存のスポーツ施設の機能向上など、ハード面も含め、アスリート本人を支える環境を今以上に充実させていくことも課題と言えます。

## （３）スポーツへの興味・関心の高まりとまちの活性化

**◆スポーツを地域活性化に繋げる取り組みの充実**

市民アンケートの結果から、実際にエコパスタジアムでサッカーやラグビーを観戦している人が多いと同時に、今後、総合体育館「さわやかアリーナ」やエコパでのプロスポーツの試合や国際大会の開催、それに伴う地域経済の活性化を期待する声が多く、今以上に身近でトップレベルの競技を観戦する機会を充実させるとともに、地元企業や市内各種団体との連携した取り組みが求められています。

こうした大会の誘致・開催支援やアイルランドオリンピックチームとの交流を市民のスポーツへの関心を高めるきっかけとするとともに、地域経済の活性化やまちの国際化に繋がる施策を展開していく必要があります。

**◆ニーズに応じたスポーツ情報の発信**

市のスポーツ情報については、市発行の広報誌を中心にインターネットや SNS などにより発信しています。年代により希望する情報の受取方法の傾向が異なるため、より幅広い世代に情報が届くよう有効的な情報発信方法を検討していく必要があります。

## （４）スポーツ活動を支える組織の強化と人材育成

**◆スポーツボランティアなどのスポーツを「支える」人材の確保**

市民アンケートからみると、スポーツボランティア経験者が全体の約 20%と低調であるとともに、ボランティアなどのスポーツを支える活動への関心が非常に低くなっています。スポーツ活動やイベントを支える人材の必要性や、それらのやりがいを効果的に発信し、「する」「観る」だけでなく、「支える」立場からイベントなどに参画する人材確保・育成を図る必要があります。

**◆地域におけるスポーツ活動環境の充実**

スポーツや運動のクラブなどへの加入者は減少しています。また、加入する場合の在り方については、ライフステージのスポーツニーズに応じて定期的・継続的に参加できるクラブなどが求められていることから、学校やスポーツクラブ、市スポーツ協会をはじめとするスポーツ関係団体の活動を支援するとともに、地域でアスリートを支える環境を充実する必要があります。

**◆指定管理者などによる事業の充実**

ニュースポーツフェスティバルをはじめとする指定管理者などとの連携による事業や指定管理者による自主事業については、市内スポーツ施設を身近に感じ、スポーツに触れることのできる貴重な機会であります。そのため、実施内容の充実や新たな事業の開催などを検討し、市民に身近なスポーツ環境を提供するとともに、各スポーツ施設の魅力を発信していくことが重要です。

## （５）誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の整備

**◆スポーツ無関心層への施設利活用のアプローチ**

公共スポーツ施設を利用しなかった方が全体の約７割と前回調査とほぼ横ばいであることや、利用しない理由については、「利用する機会・必要がなかった」と回答した方が最も多いため、市民のスポーツニーズ等を踏まえながら、更なる利用機会の拡大を図るとともに、無関心層の方に対して興味を持つきっかけを提供する必要があります。

**◆老朽化が進む施設などの適切な管理運営**

市内スポーツ施設の老朽化が進んでいる中、市民が身近にスポーツを実施できる場を確保していくため、指定管理者制度を有効活用するとともに、スポーツ施設３Ｒプロジェクト（個別施設計画）に基づく、市内公共施設の適切な整備を実施していくことが必要です。併せて、指定管理施設における採算についても、長期的な視点で不採算施設への対策を検討するとともに、民間のノウハウを活用した方策などの検討も必要です。

さらに、コミュニティ広場や多目的運動広場などについても設備の老朽化が進んでおり、維持管理にかかる負担が増加していることから、使用料の徴収も踏まえた今後の維持管理方法の見直しも検討していく必要があります。